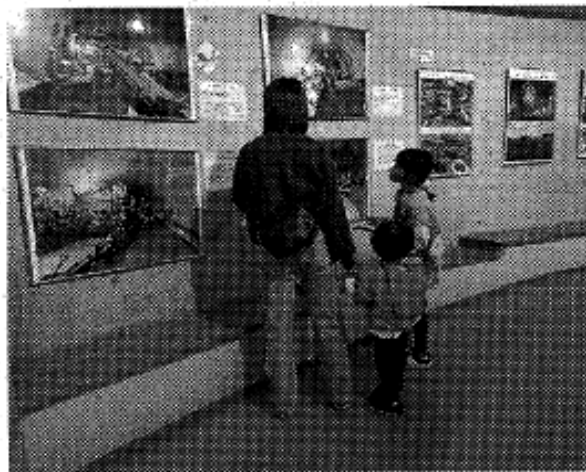


あ・ら・伊達な道の駅で  
工事のみりよく写真展

東北建設マネジメント  
技術協会、9日まで

東北建設マネジメント技  
術協会(秋葉敬治代表理事)  
が広報活動の一環で実施す  
る「工事のみりよく写真展」  
(共催・東北地方整備局)  
が1日から宮城県大崎市の  
「あ・ら・伊達な道の駅」



スパイラルホールで始まっ  
た写真展。会期は9日まで。

パネル展は、会員企業の  
社員らが撮影した道路や  
橋、トンネル、ダムなどイ  
ンフラ整備に関わる作業風  
景や現場で作業に使う重機  
などを収めた74点もの写真  
を展示。宮城県内にある東  
北整備局の仙台河川国道事  
務所と北上川下流河川事務  
所、宮城南部復興事務所、  
東北技術事務所、東北国営  
公園事務所も協力し、メン

テナンスや災害現場で活躍  
する車両など24点の写真も  
並べた。

写真からヒントを得てク  
イズラリーに挑戦してもら  
ったり、塗り絵コーナーや  
コンクリートを並べ木琴に  
見立てて音を出したり工夫  
しながら、子どもたちに建  
設業に興味を持ってもらっ  
た。

## 東北マネ技協らが写真展 あ・ら伊達な道の駅で9日まで

東北建設マネジメント技術協会（秋葉敬治代表理事）と東北地方整備局は、宮城県大崎市の「あ・ら伊達な道の駅」のスパイラルホールで「工事のみりよく写真展」を開いている＝写真。

会場には、会員企業の技術者が現場で撮影した整備中のダムや道路のほか、国土交通省の除雪車といった「道路ではたらく車」などのパネル写真74点を展示。

将来の担い手となる子どもたちとその保護者の関心を集めるように、迫力ある現場や児童らによる見学会の写真に



は、解説文やクイズなどを添付している。

初日の1日には、東北整備局職員が流域治水の取り組みを紹介する絵本「流域戦隊チスイレンジャー」の紙芝居なども催し、大勢の家族連れでにぎわっていた。

仙台市から訪れた小学2年生の男の子は「見たことがない車（重機）が写っている」と驚きの声を上げていた。

写真展は、同協会の前身である東北技術支援協会が2016年度から建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的に広報活動の一環として始めた。

活動10年目に当たり、中野真哉企画委員長は「発注者の理解・協力を得て、年々内容を充実・拡大してきた。多くの子どもたちに関心を持ってもらってきたことを実感している。今後も工夫を凝らしていきたい」と話している。会期は9日まで

東北建マネ協

## 3連休に1600人以上来場

宮城県大崎市 伊達な道の駅 工事のみりよく写真展



工事写真に見入る来場者

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)の主催、東北地方整備局の共催による「工事のみりよく写真展 in 宮城」が1日から9日まで宮城県大崎市岩出山の「あ・ら・伊達な道の駅」で開催されている。1日

と3日までの3連休は鳴子地区の紅葉が見ごろとあって、1600人以上の観光客らでにぎわった。

写真展は建設産業界のイメージアップと将来の担い手確保・育成を目的に毎年行っているイベント。

工事のパネルは道路や橋、トンネル、ダム、砂防施設などの工事現場や航空写真などで、屋上展

望台に続くスロープの壁面に沿って展示された。親子連れがスロープに沿ってゆつくり歩きながら、普段は目にするものない大型現場の様子を感心しながら眺める姿がみられた。

3日までの入場者は1日目が448人、2日目が732人、3日目が484人。このうち親子連れは344組だった。

1日には当日限定のイベントとして「流域戦隊治水レンジャーよみかせ!」を実施。会場ではこのほか、クイズラリーや塗り絵も実施され、参加者にはおもちゃのプレゼントも用意されている。

東北建設マネジメント技術協会(秋葉敬治代表理事)は、大崎市のあ・ら・伊達な道の駅で「工事のみりよく写真展i11宮城」を開催している。国土交通省東北地方整備局との共催で、初めて取り入れたクイズラリーが特に人気を集め、子どもを中心に多くの人々がクイズに挑戦しながら写真を巡り、工事や建設業への理解を深めていた。写真展の開催期間は9日まで。

写真展は建設業界のイメージアップと、将来の担い手確保・育成を目的に、広報活動の一環として2016年から毎年開催している。入場は無料。特に子どもたちが建設産業に興味を持てるように毎回工夫を凝らしている。

今回はダムやトンネルなどの構造物、さまざまな建設機械、建設工事の施工状況に加え、震災伝承や流域

興味深げに写真を眺める人々



「流域戦隊チスイレンジャー」の読み聞かせ



ントを求めて次々に写真を食い入るように見つめ、大人と熱心に相談しながらクイズに挑戦していた。

1日だけの限定イベントとして、東北地方整備局北上川下流河川事務所の職員が「流域戦隊チスイレンジャー」の読み聞かせを行ったほか、同局東北国営公園事務所の職員がみちのく杜の湖畔公園のキャラクター「シカボー」と「モシカ」を連れて来て、イベントへの参加を促した。

東北建設マネジメント技術協会企画委員会写真パネル展の広報を担当している横井一司氏(スタッフ)は、縮役東北支店長は、「パネルを見てもらう仕事けとじてクイズラリーを用意した」と明かし、「子どもたち

## 工事写真展が大好評

クイズラリーは当たり前

### 東北建マネ協会

治水の取り組みなど、協会が50枚、国交省が24枚で計74枚の写真パネルを展示。関東・東北豪雨から10年のパネル展も同時開催している。

クイズラリーでは「斜面をけすったり、深い穴をほることが得意な車ってなんだ？」などのクイズが書かれた紙を配り、写真パネルにヒントを添えることで、参加者に展覧会場を巡って知識と興味を深めてもらえ

るよう工夫した。正解者にはおもちゃを配った。1日に会場を取材すると、家族連れを中心に多くの人が写真の前足を運んでいた。クイズラリーは不

「勉強になって楽しかった」と感想を話した。1〜3日の3日間では、大人1244人、子ども420人の計1664人が訪れた。このうち親子は74組だった。

別の女性は、写真展が「スパイラルボール」という上り下りする空間を利用して開催されていることから「せっかくなのだからただ上るよりよい」ということでクイズラリーに参加しており、建設機械などを覚えて「孫に自慢したい」と笑っていた。

チスイレンジャーの読み聞かせに参加した男の子は「勉強になって楽しかった」と感想を話した。1〜3日の3日間では、大人1244人、子ども420人の計1664人が訪れた。このうち親子は74組だった。